

平成 31 年度（2019 年度）宇城地区司書部会研修会報告

- 1 期 日 令和元年(2019年) 8月23日(金)
- 2 時 間 午前9時00分～午後12時00分
- 3 場 所 宇土市花園コミュニティセンター
- 4 参加者 学校図書館協議会宇城支部会員の学校司書の皆様(29名)
- 5 訪問者 情報支援課 指導主事 小畑祐介
- 6 訪問の概要

(1) 講話・演習「学校図書館からの授業支援」(小畑 90分)

指導主事による講話・演習を行った。内容は「学校図書館からの授業支援」と題し、①学校図書館(学校)が求められているもの、②現場にいた経験から感じたこと、③これからの学校図書館について考えるという3つの観点から話を進めた。



「学校図書館が求められているもの」では、法律から学校図書館の意義・目的を確認し、近々迫っている学習指導要領改訂の話題を用い、学校図書館の有用性を再確認していただいた。

「現場にいた経験から感じたこと」では、過去に司書教諭として、学校図書館を運営していた経験から、学校図書館の現状に潜む課題を明確にしていった。

「これからの学校図書館について考える」では、現状を打破するために、学校図書館がどう支援していけばよいのかを演習を交えて参加者とともに考えを深めていった。演習では、より信頼を得られるレファレンスができるようになると、先生方も学校図書館をさらに使用してくれるのではないかという考えから、「自分のレファレンスを振り返る」という演習を行い、状況を変えてレファレンスを疑似的に行い、自分のレファレンスインタビューの行い方や態度などを振り返っていただいた。

(2) グループ協議(60分)

講話の後は、「選書」「イベント」「蔵書管理」の3つのグループに分かれてそれぞれの学校で困っていることや、工夫していることを話し合った。指導主事は始め「選書」グループに入り、県立図書館の選書が選書方針にきちんと基づいて行っていること、複数体制で選書を行っていることなど、学校との違いや学校でも役に立ちそうなことの話を行った。後半は「蔵書管理」グループに入り、学校現場での分類の悩みを皆で共有した後に、学校ならではの分類もあるようなので、社会に出たときに、公共図書館をうまく使えるようになるという視点を忘れないようにという話を行った。

7 アンケート結果の概要

(1) 本日の研修（日時・場所等）について

- ・よかった（7名）（学校が始まる直前でやる気が出たという意見もあり）
- ・8月初旬が良い

(2) 講話・演習について

- ・学校図書館に求められている像が見えた。
- ・司書と司書教諭の立場を理解されているので、貴重なお話だった。（6名）
- ・レファレンス演習が良かった。（4名）
- ・演習をもっとしたい（2名）
- ・レファレンス、レファレンスインタビューの大切さを感じた。（5名）
- ・先生方が来てくれるようになるための予習、アピールが大事（2名）
- ・知識だけでなくコミュニケーション能力も必要（2名）
- ・参考になった、わかりやすかった。
- ・また、小畑先生のお話を聞きたい。

(3) 意見交換について

- ・いろいろな意見を聞くことができて良かった。（15名）
- ・小畑先生に入ってもらったのが良かった。（2名）
- ・学校によって違いがあることに驚いた。（2名）
- ・「一人で悩まないで」という言葉に安心した。（2名）

(4) その他

- ・このような研修をまたしたい（3名）

8 感想等



感想としては、おおむね好評な内容であった。特に、講話では、教員とのコミュニケーションや正確なレファレンスが信頼関係を築く際に必要であるという考えがうまく伝わっているようだった。

また、一人で学校図書館を盛り上げようと考えのではなく、様々な人を巻き込んで元気を出していくという考えが広まっていったことが喜ば

しいことであった。

正確なレファレンスのための演習はまだまだ、開発段階であり、試行が必要だが、いろいろな状況に合わせてレファレンスを行っていくことが、信頼される学校図書館につながり、学校司書の皆さんの自信にもつながっていくのではないかと考える。